

大手と中小マッチング

未来を築く 地域発イノベーション

千葉県内で製造品出荷額第1位を誇る市原市。東京湾に面した臨海部には国内で最大規模の石油化学コンビナートが並ぶ。工業と縁のある市原市は今、立地する大手メーカーと地域の中小企業を結びつける取り組みに力を入れている。

千葉県市原市

2008年にスタートした「中小企業サポーター」は、地元の中小企業に集積する産業力を地元の中小製造業の支援・活性化に生かそうとしている。事業の開始にあたって、市は「中小企業コーディネーター」を任命。メンバーはいずれも大手企業で長年経験を積んだ技術部門のOBらだ。技術開発をはじめ、生産・品質管理のノウハウ、ISOの審査資格なども保有しており、時を重ねて築き上げてきた人脈も幅広い。

臨海部の産業力生かす

このマッチングなどに取り組む。企業を一社ずつ訪問するスタイルで企業の活動をサポートする。「地元を丹念に回って歩取り組みは珍しい」と、3月末までの支援実績は

コーディネーターが幅広く支援



市原市主催の中小製造業向けセミナー。現場の管理者などが参加しやすいよう、夕方に開催している。300件を求めた専門家を紹介して超えた。支援内容は、コーディネーターの経営革新計画や各助成金の申請指導をはじめ、企業や大



市原市で中小企業政策の陣頭指揮を執る石井賢二経済部次長兼工業振興課課長に聞いた。中小企業サポーター事業を始めたきっかけは、

市原市経済部次長
兼工業振興課課長

石井 賢二氏に聞く

トータルで支援が必要

地道な取り組みが成果を上げています。地道な取り組みが成果を上げています。

「市内には世界に通用する技術を持った中小企業が少なくないが、それらがどういった企業でどのようなニーズがあるか行政側で把握できていない。」「市内には世界に通用する技術を持った中小企業が少なくないが、それらがどういった企業でどのようなニーズがあるか行政側で把握できていない。」

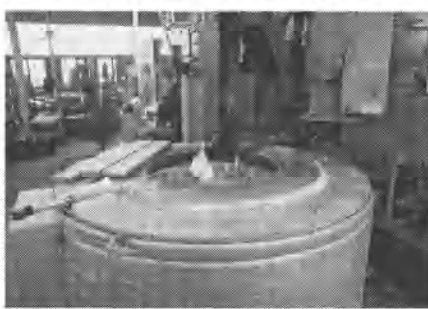
事例

京葉ダイカスト アルミ溶解に電気炉 大手支援でCO₂半減

住友化学、旭硝子など素材・エネルギー関連が中心で、産業構造は下請け・孫請けを抱えるピラミッド型ではない。市内の中小企業と進出企業のつながりは決して強いと見えなかったが、市性は取り組んでいる。

市の製造を得意とする。同社は東京電力の支援を受けて、2009年に4基のアルミ溶解炉のうち1基を重油燃焼式から電気式に変えた。稼働後の実験では、電気炉は二酸化炭素(CO₂)排出量が重油燃焼方式に比べて約半分、燃料コストも3割少ないことが判明。当初の期待以上の効果を上げた。

京葉ダイカスト(千葉県市原市)は薄くて複雑な形状のアルミニウム部品を製造している。市内の中小企業コーディネーターに悩みを相談したところ、



京葉ダイカストの電気式アルミ溶解炉

08年に時田博之京葉ダイカスト社長は原油急騰による燃料費の上昇に悩んでいた。市原市の中小企業コーディネーターに悩みを相談したところ、